

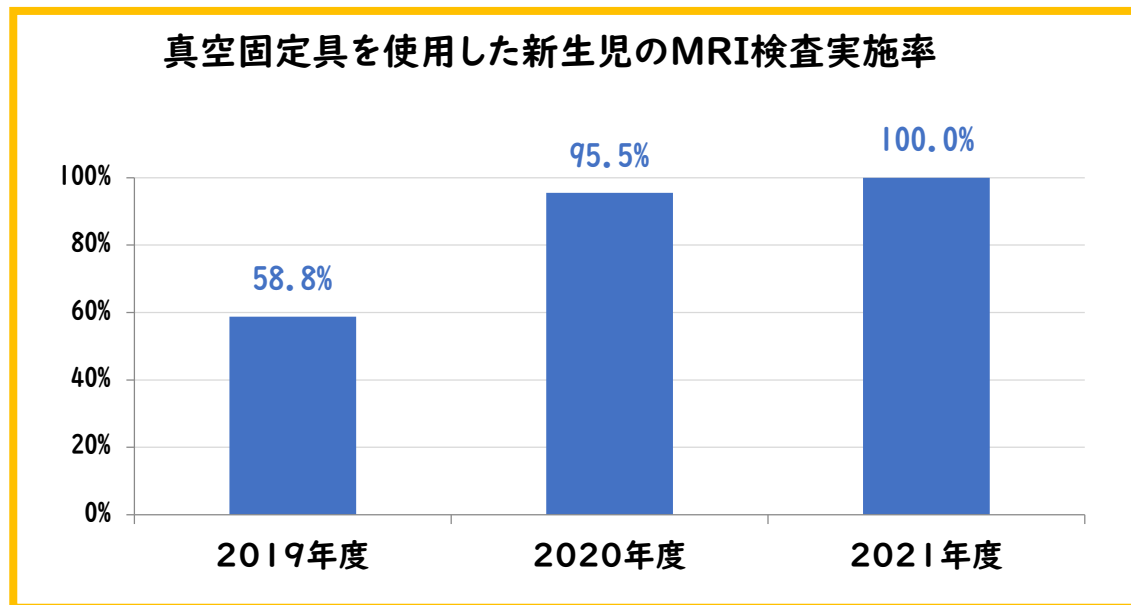
14 真空固定具を使用した新生児のMRI検査実施率

小児科

◆解説◆

2019年に真空固定具を導入し、新生児のMRI検査実施時に使用しています。導入前は静脈麻酔を用いた鎮静を行っていたため、一定の割合で有害事象発生の可能性がありました。
真空固定具の使用により鎮静に伴う呼吸抑制などのリスクが回避できます。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

静脈麻酔に伴う有害事象発生率は50%程度あり、安全な検査実施体制の整備を目的に真空固定具を導入しました。

真空固定具の使用時の有害事象の発生は認めておらず、安全な医療提供につながったと考えています。

左図の通り、高い実施率を達成でき、次年度以降も同水準での実施率を維持することを目標としています。

◆定義◆

分母：新生児のMR検査件数(分母)に対するMR検査時真空固定具を使用した件数(分子)
※静脈麻酔(複雑なもの)を算定していないMR検査は真空固定具で実施していることとして算出